地震について

地震 そのとき 行動のポイント!

地震発生時の行動

地震! まずは身の安全確保

- 揺れを感じたときや緊急地震速報を受けたときには身の安全確保を最優先に行動する。
- テーブルの下に入って落下物や倒れてくる物から身を守る。
- テーブルなどの隠れる所が無い場合は広いスペースに行き、頭を抱えて小さくなる。
- むやみに外に出ない。瓦や窓ガラスなどが落ちてけがをする危険がある。

地震直後の行動

火の元の確認・火の始末

- 火を使っているときは揺れがおさまってから火の始末をする。揺れている最中はやけどを負う危険があるので注意。
- 出火したら慌てず、揺れがおさまってから消火する。
  ※ガスはメーターに遮断装置が付いているので、震度5弱以上の地震で自動的に止まります。

家の中での注意点

- 転倒・落下した家具類やガラスの破片に注意。
- 揺れがおさまったときに避難できるよう窓や戸を開け、出口を確保する。

外へ出たときの注意点

- 瓦、窓ガラス、看板、エアコン室外機などが落ちてくるので注意。
- 切れた電線や傾いた建物・ブロック塀・自動販売機など倒壊の恐れがある物には近寄らない。

地震後の行動

情報を集める

- ラジオ(エフエム太郎)、おおた安全・安心メール、市ホームページ、広報課ツイッター、防災行政無線(尾島・世良田地区)、テレビなどから正しい情報を得る。

家族とわが家の安全を確かめる

- 家族に連絡して安全確認、わが家の安全を確認する。

近所と協力、救出・救護

- 近所で被災した人をみんなで協力して救出や救護に当たる。

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、揺れがおさまったら屋外の安全な場所へ避難する。
- 火元を確認する。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウや商品などから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。

集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示を聞く。あわてずに冷静な行動をとる。

屋外にいた場合

路 上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などがないときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に注意する。

車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。

避難の流れ

地震発生(身の安全確保)

揺れがおさまる
自宅にとどまることが安全か確認!

ポイント
- □市役所などからの避難に関する情報〈ラジオ(エフエム太郎)、おおた安全・安心メールなど〉
- □自宅の破損状況
- □火災、崖崩れ、家屋の倒壊などの危険性

自宅が危険 → 避難

基 基幹避難所(行政センターなど)
災害時には速やかに開設される

避難者が増加 →

指 指定避難所(学校の体育館など)

→ **福 福祉避難所**(福祉施設など)
指定避難所での生活が困難な要介護高齢者や障がいのある人を受け入れる

周囲が安全であれば自宅へ戻ることを検討する

自宅が安全 → **自宅**
- ●自宅での生活は、プライバシーが守られるなど精神的な負担が少ない
- ●水道、電気、ガスが途絶している場合は、避難所などでの炊き出しや仮設トイレなどを利用する
- ●ラジオ(エフエム太郎)やおおた安全・安心メールなどによる市からの情報を得る

太田市地震防災マップ ～揺れやすさマップ～

揺れやすさマップとは?

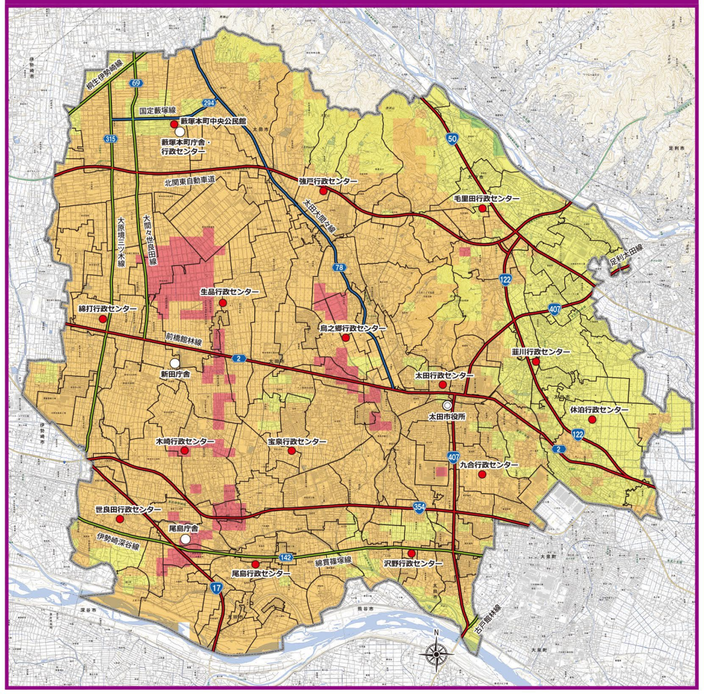
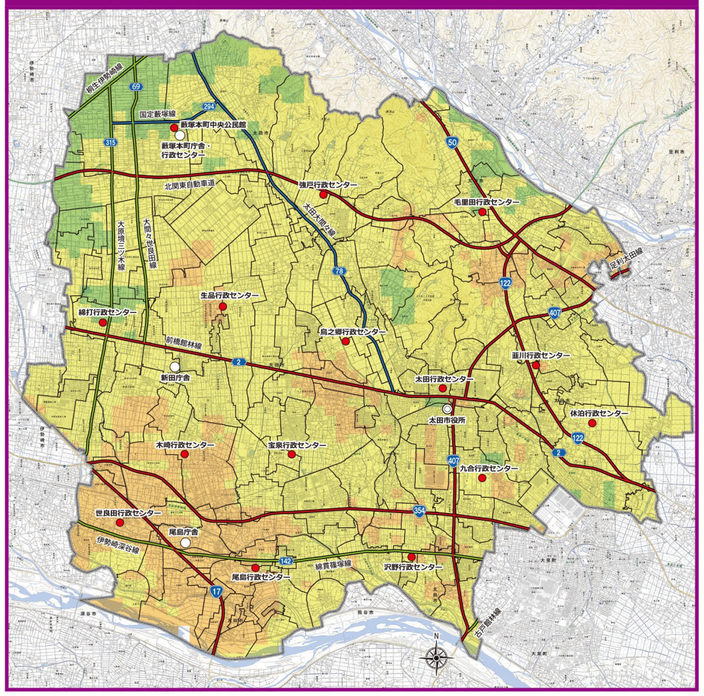
揺れやすさマップとは、地震が発生した場合の震度分布を、250mメッシュごとに震度階級で表示したものです。

震度階級の解説

震度階級	人間	屋内の状況	屋外の状況
震度7	立っていることができず、はわないと動くことができない。 揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。 補強されているブロック塀も破損するものがある。
震度6強		固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。 補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
震度6弱	立っていることが、困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
震度5強	大半の人が、物につかまらないと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。 テレビが台から落ちることがある。 固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。 補強されていないブロック塀が崩れることがある。 据付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。 自動車の運転が困難となり、停止する車もある。

出典:気象庁震度階級関連解説表

太田断層による地震



関東平野北西縁断層帯主部による地震